

「火具鎚のうた」上演台本

脚本・春陽漁介

■あらすじ

舞台は2100年の和歌山市、幼馴染の3人の主人公は世界の終末を夢で見る。やがてその終末が現実のものとして迫ってきていることを知る3人。果たしてこの世界の終末を防ぐことができるのか。ヒト科/人類は、火を道具として操ることで自分たちだけを自然摂理から切り離し、人間（人と人との間≡社会）となった。

火は鉄を生み、鉄は武器となり、それは、さらなる大火を生み続けた。

そうして、道“具”としての“火”はいつしか、

人間があつかえる限界を遙かに超え、この星を幾度も滅ぼすほど、強く大きな力を持った。

それこそが、太古の昔から語り継がれてきた「火具鎚」であり、

八百万の神々が、驕り高ぶった人間へと振り下ろす鉄“鎚”だ。

火を生む環境破壊。

本末転倒な核兵器。

心を失わせる炎上。

これは、あらゆる火を起こし、

自らのみならずすべてを焼き尽くさんとする人間の業に警鐘を鳴らす歌だ。

■登場人物・キャスト

| | | |
|----------|------|-----------------------------|
| ミーコ (16) | 土井美咲 | 和歌山市の公立高校に通う高校二年生、カイ・ソラと幼馴染 |
| カイ (17) | 中西弘志 | 和歌山市の公立高校に通う高校三年生、ソラの兄 |
| ソラ (16) | 藤田晴 | 和歌山市の公立高校に通う高校二年生、カイの弟 |

| | | |
|----------|-------|-----------------------|
| ナミ (40) | 天翔りいら | 広告代理店勤務のシングルマザー、ミーコの母 |
| ヤマト (48) | 村尾俊明 | 公務員、カイ・ソラの父 |
| クシナ (47) | 岡元あつこ | 産婦人科勤務、カイ・ソラの母 |
| ミツハ (70) | 佐瀬恭代 | 矢宮神社で参拝をする老婆 |

| | | |
|---------|------|---------------------|
| ハバリ (5) | 浜畑賢吉 | ミーコ・カイ・ソラの夢に現れる謎の老人 |
|---------|------|---------------------|

| | | | | | |
|-----|------|------|------|------|------|
| ツカイ | 芝地望鼓 | 宮崎美袖 | 川元愛花 | 富田蒼伊 | 川崎由菜 |
| | 村上渉 | 阿部沙耶 | 野中萌良 | 村上生馬 | 高橋佑紀 |

| | |
|----|----------|
| 神々 | ポズック楽団 |
| 人々 | 和歌山児童合唱団 |

■ 0 大噴火

客入れ状態。テーマ曲（合唱「カグツチ」）が流れ始める。
 曲の進行とともに、レーザー演出。
 少女が一人、しゃがみ込む。
 ツカイたちが次々登場し、立っている。
 LEDとレーザーとSEによる噴火表現。
 逃げ惑うツカイたち。噴火の炎や溶岩などを身体表現。
 客席に、呆然と眺めている人々。
 曲のクライマックス、ミーコとカイとソラが登場。
 テーマ曲（合唱「カグツチ」）の終わりとともに暗転。

■ 1 朝のミーコ宅のダイニング

テーブルとしての岩と椅子としての岩が二つ。
 テーブルには、朝食が乗っている。
 ミーコ、うつろな表情で座っている。
 ナミ、ミーコに呼びかける。

ナミ ミーコ？ ……ミーコ。 ミーコ！
 ミーコ え……？
 ナミ なんよ、ボートとして。顔洗ったん？
 ミーコ うん……。

ミーコのスマホから通知音が聞こえる。
 ミーコ、熱心にスマホを弄る。
 朝食を食べながらの会話。

ナミ 今日成績表やろ？
 ミーコ まあ……。
 ナミ ママ、帰り遅なるから机に置いといてな？
 ミーコ うん……。

間。

ナミ ミーコ、スマホやめな？
 ミーコ ちよつと待って。
 ナミ 待ちません。ご飯食べよおや。
 ミーコ 大事やの。

ナミ ママとのご飯より大事ななん？
ミーコ 何それ。毎朝食べてるやん。

間。

ナミ なんかつたん？

ミーコ ……なんで？

ナミ 元気ないから。

ミーコ 別に。

ナミ 具合悪い？

ミーコ ……ちよつと頭痛い。

ナミ 熱あるんちゃうん？（ミーコに近寄る）

ミーコ 無いよ。

ナミ いいから。ちよつと貸して。（ミーコのおでこに触れる）

ミーコ いいって。ちよつと寝れやんかっただけ。

ナミ そうなん？ 学校休む？

ミーコ ……どうしよ。

ナミ ママは決められへんよ？ ミーコが決めやんと。

ミーコ ……。

ナミ 行くの？ 行かへんの？

ミーコ、立ち上がる。

ミーコ ……行く。

ナミ よし。頑張つてな！

ミーコ、小さく頷く。

■ 2 夕方の公園

ベンチ的に岩が二つ。

ミーコ、座ってスマホを弄っている。

ソラ、座って自分の成績表を見ている。

カイ、立って自分の成績表を見ている。

カイ、ソラの成績表を覗く。

カイ 体育以外全部5おやん！

ソラ (成績表を隠し) 勝手に見やんといてよ！

カイ ソラはさすがやなあ。またおかん喜ぶやん。

ソラ 兄ちゃんは？

カイ 俺のは別にええよ。

ソラ それはズルいわ。見せてや。

カイ えっと、もろてない。

ソラ いや、持つてるやん。

カイ 何が？

ソラ いや、見えてるから。

カイ 何が？ 何が！？

ソラ ……どうせ体育以外1なんやろ？

カイ そんなわけあるか！ 2もあるぞお？

ソラ やば。お母さんまた激怒やな。

カイ でも、ソラと平均したら3か4になるし。

ソラ なんて僕と平均するねん。

カイ ミーコは？

ソラ ……。

カイ ……ミーコ？

ミーコ え？

カイ どしたん？

ミーコ え、何が？

ソラ なんか元気なくない？

ミーコ え、そう？

カイ あ、成績悪かったんか！ そういう時もあるよな。そんな気にすることちゃうでえ。

ソラ 兄ちゃんは気にした方がいいで。

カイ 気にしとるわ！ セヤから真面目に塾行ってるんやけど。

ソラ その成果が出てへんからお母さん絶望してるんやけど。

カイ これからやし！ 俺らはこれから伸びるんよ！ (ミーコ) なあ！？

ミーコ いや、私は成績悪くなかったんやけど…

カイ え、そうなん？

ソラ じゃあどうしたん？

ミーコ うん……

ソラ いや、うんやなくて。

ミーコ ……なんかな？ 最近、変な夢見るんよ。
夢？

ミーコ すごい地鳴りが響いて、大爆発する夢。

ソラ え。

ミーコ あれは多分噴火なんやけど、もうテレビとかでも見たことないような大噴火で——
カイ え、ちよお待って！ それ俺も見たんやけど！

ミーコ え！？ ほんまに！？

カイ ほんまよ！ ドカーン！ ボカーン！ つてめちゃくちゃデカイ音して！

ミーコ マグマの火柱が空まで伸びてて！？

カイ そう！ もう一瞬で灰に包まれて！

ミーコ 岩も降ってくる！？

カイ そう！ めちゃくちゃデカイ岩！

ミーコ それが空から！？

二人 降ってくる！ え、完全に一緒やん！

二人は、「どういうこと！？」「同じ夢見てるやん！」「怖い！」などと盛り上がる。

ミーコは恐怖を感じ、カイはワクワクしている様子。

ソラ うるさい！……そんなん、ただの夢やろ！

カイ でもビックリちゃう？ 同じ夢見てたんやで？

ソラ 別に、夢なんて記憶やねんから。二人に同じような記憶があっただけやろ。

カイ 同じような記憶？

ソラ 噴火が起きる映画見たとか……。

ミーコ え……私最近そんな映画とか見てへんけど……。

カイ 俺も。

ソラ 最近じゃなくても見たことあるやろ？ そういう記憶が呼び起こされてるねん。

ミーコ 同時に？

ソラ たまたまそういうこともあるんちゃう？

カイ でもよお、同じ夢やで？

ソラ そんなのわからんやろ？ お互いの夢を見比べたわけじゃないんやから。それに、夢の中で見たことなんか、起きたらうろ覚えになるもんやし。ほんまに見たんかも怪しいわ。

カイ ほんまやって！

ソラ どうやろうな。

カイ は！？ お前信じてへんの！？

ソラ だって、そんなん言っただもん勝ちやん。

カイ おま！ 俺がそんな嘘言うことあるかよ！ 兄ちゃんは悲しいぞ！

カイ、ソラを抱きしめる。

ソラ やめろや！ 気色悪い！
 ミーコ 私にもちゃんと残ってる。噴火が起きて、世界が薄暗い霧に包まれていくのと一緒に、怖くてたまらんくなってる。その恐怖が確かに残ってる。
 ソラ そんなん……怖いとか言うてるやん。別に夢と関係ないんちゃう？
 ミーコ ある。この夢の怖さはいつも言つとる怖いとかは比にならんやつなんよ。こう……うまく言えやんのやけど、私はそこにいて、ちゃんとその恐怖を感じてる。
 ソラ 何言ってるかわからんから。
 ミーコ ……。
 カイ ほんまに見たんやで？
 ソラ わかったって。

和歌山城から流れる、夕方の時報チャイムが聞こえる。

ソラ ほら、もう塾の時間やで。
 カイ ミーコ、行こうら？
 ミーコ うん……。

三人は、塾へ向かおうと移動するが、ソラが動かない。

カイ ん？
 ソラ ……ごめん。今日僕、塾休む。
 カイ え？ なんで？
 ソラ ちょっと図書館行ってくる。

ソラ、逆方向に歩き去る。

カイ あいつ、急になんなよ。
 ミーコ ……私たちのせい？
 カイ え、なんで？
 ミーコ いや、わからんけど。
 カイ ほんまに調べたいことあったんちゃう？ そもそもソラは塾なんか行かんでも平気やろうし。俺もサボろかなあ。
 ミーコ カイ君はあかんで。
 カイ そうですよね。

二人、歩き去る。

■ 3 夜のカイソラ宅のリビング

ローテーブルとしての岩が一つ。ソファ的な岩が二つ。

ローテーブルには、瓶ビールとグラスが一つ。

ヤマト、ソファに座り、漫画を読みながらビールを飲んでる。

カイ、塾から帰宅する。

カイ ただいまあー。

ヤマト おかえりい。

カイ あー疲れた疲れた。……あれ？ おかんは？

ヤマト 残業みたいやで。

カイ また？ 飯は？

ヤマト 冷蔵庫に色々あるから適当にどうぞ。

カイ (ビールを注ぐヤマトを見て) ああ、どうもどうもお。

ヤマト ああ、どうぞどうぞ。グイッといつてくささい、グイッと。

カイ (グラスを掲げ) ありがとう。

ヤマト 飲めるわけないやろ。

カイ なんなよ。

ヤマト あれ？ ソラは？

カイ あれ？ まだ帰って来てない？

ヤマト は？ 塾やろ？

カイ 今日サボったんよ。

ヤマト へー。

カイ え、どこ行ったとか聞かへんの？ 遊び行ってんのか！ みたいな。

ヤマト どうせ図書館やろ？

カイ さっすがー。

ヤマト ソラはお前とはちゃうからな。

カイ おとんに似たんかな。

クシナ、帰宅する。

クシナ ただいま。

二人 おかえり。

ヤマト 遅かったなあ。

クシナ ごめんねえ。

ヤマト ご飯は？

クシナ ううん、いらぬ。あ、私もビールもらおうかな。

ヤマト、グラスにビールを注ぐ。

カイ 何？ 急患？

クシナ うーん、そういうわけじゃないんだけどね。

ヤマト またミステリー赤ちゃんの誕生か？

クシナ だから、そういう言い方やめてって。

カイ 何？ ミステリー赤ちゃんって。

ヤマト 最近ママの病院でおかしな赤ちゃん増えてるんやって。

カイ おかしい？ 何が？

クシナ ーん、なんかね？ 最近おっぱいを飲まない赤ちゃんが増えてて。

カイ 何それ。そんなことあんの？

クシナ たまにそういう子もいたりするんだけど、あまりにも多いのよ。

ヤマト それはやっぱり不味いことなんやろ？

クシナ そりゃそうよ。赤ちゃんの栄養源は母乳だからね。

ヤマト じゃあそれは無理矢理飲ませることになんの？

クシナ まあ無理矢理ってほどじゃないけど、少しは強引になるわよね。

カイ なんでそんなことになるん？

クシナ うーん、正直わからない。

カイ え。

クシナ ナーシングストライキっていつて、母乳を嫌がる時期があることは珍しくもないのよ。でも、さすがに生まれてすぐに嫌がる赤ちゃんなんてなかなかないからね。なんでって聞かれると私たちもわからないのが正直なところ。

ヤマト それはあれやな。赤ちゃんの動物としての本能が弱まってるんやろな。

カイ 本能？

ヤマト おっぱい飲んだり、自分の異変を泣いて知らせたり？ ハイハイとか、立って歩くとか、全部動物としての本能なわけやから。それが弱まってる子おが生まれてるってことは、人類のピンチやな。

カイ え……。

クシナ ちよつと。適当なこと言わないで。

ヤマト そうちゃう？

クシナ 大袈裟よ。

ヤマト 大袈裟とちゃうって！ 人類の異変っていうのはそういうちっさい——

クシナ それ以上言うと漫画禁止にするわよ？

ヤマト それはズルいわあ。

ソラ、手にいくつかの本を抱えて帰宅する。

ソラ ただいま。

クシナ あら、おかえり。ご飯は？

ソラ いらん。

ソラ、リビングには立ち寄らず、そのまま自室に去る。

ヤマト なんや？ 怖い顔して。

クシナ ソラ、何かあったの？

カイ 多分、夢のこと調べてるんちゃうかなあ。

クシナ 夢？

カイ 俺とミリーコがな？ 同じ夢見たんよ。

クシナ 何よそれ。

カイ どえらいデッカい噴火の夢。もう世界が滅びるような、デッカい噴火。

クシナ ちよっと、カイまでなんなのよ。

ヤマト おいおい、興味あるなあ。詳しく聞かせてや。

ツカイ、あちこちから入ってくる。

カイ なんでもない普通の日に、地鳴りが響いてくんのよ。

地鳴りがうつつすらと聞こえ始める。

カイ 広場で遊んでる子おとか、家族は、異変を感じて、辺りを見回す。

ツカイたち、地鳴りに気づき、辺りを見回す。

地鳴りがカイの声をかき消すほど大きくなっていく。

カイ ほいたら、突然おっきな爆発音が――

爆発音と赤い光が襲いかかる。

ツカイたち、逃げ惑う。

ツカイたち、徐々に倒れていく。

噴火の音が収まり、静寂とスモークが包む。

■ 4 夢の中

BGMが聞こえて来ると共に、レーザーによる異空間演出。

倒れていたツカイたちが起き上がり、異空間表現。

岩を浮遊させ、舞台中央奥に集まる。

岩とツカイが広がると、ゲートからハバリが現れる。

ハバリの語り中、ツカイたちはハバリの遣いの立ち位置。

ハバリ

全てを焼き尽くす大きな炎……それはとても熱く、とても恐ろしい。しかし、この言葉は、幻に過ぎない。言葉で意味は残せども、絵で色は残せども、その熱、その恐怖は、伝わりはしない。文字や色ではなく、心に留めよ。その心に、熱と恐怖、そのものを留めよ。真実は、言葉ではなく、心にもみ宿る。

ハバリ、ゆっくりと辺りを見回し、ゲートに去る。

ツカイたち、ハバリの後を追い、ゲートに去る。

BGMが終わる。

■ 5 朝の通学路

カイとソラ、学校へ向かって歩いてる。
ソラ、フラフラとした足取り。

カイ おおい、大丈夫か？
ソラ ……ごめん、ちょっと座っていい？
カイ 別にええけど。

ソラ、ベンチに座り込む。

カイ あんま寝てないん？
ソラ 朝まで調べ物してて……。
カイ 何調べてたん？
ソラ ……。
カイ お前、実は夢のこと気になってるんやろ？
ソラ ……先学校行ってええよ？
カイ なんでよ。
ソラ 兄ちゃんまで遅刻させるわけにはいかんし。
ソラ 別に平気やって。
カイ 遅刻欠席は気をつけた方がええで、せめて。
カイ せめてってどういう意味やねん。

ミーコ、駆け寄って来る。

ミーコ カイクん！
カイ おお、おはよ！

ミーコ、息を切らす。

カイ 大丈夫か？
ミーコ 昨日の夢、見た！？
カイ 見た！
ミーコ 今までの夢と、違ったよな！？
カイ 変な老人やろ！？
ミーコ そう。
カイ あれ、どういうことなんやろなあ。
ミーコ こっちが聞きたいわ。
カイ あの言葉もどういう意味なんやろなあ？
ミーコ え、何が？

カイ なんかさ、やたら喋ってたやん？
ミーコ 喋ってた？

カイ なんか、難しい言葉、いっぱい喋ってたやん！
ミーコ え？

カイ 覚えてへんの？

ソラ 覚えてんの！？ 何言うてたか。

カイ え？ 覚えてるよ。

ソラ ちょ！ 教えて！

カイ えつとなあ、「全てを焼き尽くす大きな炎。それはとても熱く、とても恐ろしい。しかし、この言葉は、幻に過ぎない。言葉で想いは残せども、絵で色は残せども、その熱、その恐怖は、伝わりはしない。文字や色ではなく、心に留めよ。その心に、熱と恐怖、そのものを留めよ。真実は、言葉ではなく、心へのみ宿る」

ミーコ それどういう意味！？

カイ それはわからん。

ミーコ もう、役立たへんなあ！

カイ え、覚えてるだけで凄くない？

ソラ 大きな炎って、夢で見てる噴火のことやんな。

ミーコ それは熱くて、恐ろしい……。

ソラ しかし、この言葉は幻に過ぎない。

ミーコ ……どうということやろ。

ミーコのスマホから SNS の通知音が鳴る。

カイ 噴火って、ほんまは熱くも恐ろしくもないんちゃう？

ミーコ いや、どう考えても熱いし、恐ろしいでしょ。

ミーコのスマホから SNS の通知音が連続して鳴り始める。

ソラ 「言葉が幻」ってことは、言葉は実在しないってことやろ？

カイ は？ 言葉はあるやろ。

ミーコのスマホから SNS の通知音が激しくなる。

ソラ いや、言葉はあるけど、多分そういう意味じゃなくて――

カイ (ミーコに) なんよお！ うるさいなあ！

BGM が聞こえてくると共に、LED で SNS 画面が表示。

台詞に合わせて、拡散やコメントの様子が展開。

ミーコ ちよっとこれ見て？

ミーコ、ソラにスマホを渡す。

カイ なんよお。

ミーコ ちよっと前に噴火の夢のこと SNS に上げてたんやけど、それがすごい拡散されてて……。

カイ え？

ソラ コメントも殺到してる。同じように噴火の夢を見た人が大量におるみたい。

カイ え、嘘やろ？ 見せて？

カイ、スマホを眺める。

カイ なんなこれ！ どうなってんの！？

ソラ 知るわけないやん！

カイ いや、コメント止まらなんのやだけど！ こおわッ！

不安な表情のミーコ。

突如、日本のニュース音声流れる。

LED に日本のネットニュースの記事。

キャスト 次のニュースです。同じような噴火の夢を見る、という現象が高校生を中心に SNS で話題となつています。これは日本全国に留まらず、世界各国で同じ現象が報告されており、夢を見るのは中高生ばかりとなっています。

日本のニュース音声にかぶせて、英語のニュース音声、スペイン語のニュース音声が流れて来る。

LED には、各国のネットニュースの記事が表示される。

混乱する三人に襲いかかる爆発音と赤い光。

三人は逃げ回る。

BGM (発注済み) が終わる。

薄暗い中でミーコのシルエットが象徴的に残る。

■ 6 夢の中

薄暗い異空間で、不安に満ちたミーコが彷徨っている。

ミーコ ……ママあ。カイくん。ソラあ……。

ミーコの恐怖が膨らむ。

ミーコ ママあ！カイくん！ソラ！

BGMが聞こえて来ると共に、レーザーによる異空間の変化。

ハバリ、暗闇から現れる。

ハバリ 全てを焼き尽くす大きな炎……熱さ、恐ろしさの言葉は、幻に過ぎない。言葉で意味は残せども、絵で色は残せども、その熱、その恐怖は、伝わりはしない。

ミーコ あの……お爺さん。

ハバリ、ミーコにゆっくりと振り返る。

ミーコ、恐怖と混乱で上手く言葉が出てこない。

ミーコ あの……大きな炎って、その、言葉って、えっと……

ハバリ ほう……集まり始めたようじゃ。

ミーコ え……？

カイ声 ミーコ！

ソラ声 ミーコ！

カイとソラ、それぞれ別の方向から駆け込んでくる。

ミーコ カイクン！ソラ！

カイ なんなよ、これ。夢にソラとミーコまで出てきたやん。

ソラ あの……お爺さん、言葉が幻ってどういう意味ですか？

ハバリ ……お主らは進むか？

ソラ え？

ハバリ ワシの言葉を受け止めるか？

カイ 受け止める！進む！

ミーコ ちよっと、カイくん……

ハバリ お主らは、過去を未来に繋げている。文字や形、色を使い伝える。しかし、それに意味はない。心を繋げよ。無限とも思える心は、元を辿ればたった一つ。無限の想いに辿り着け。一つの心を無限に広げよ。

カイ ……は？ どういう意味？

ハバリ、闇に消える。

カイ
おい！

ソラ
消えた……？

カイ
ちよっと待てよ！ 何言ってるか全然わからんぞ！
ソラ
なんやねん……。

ミーコ、力が抜け、座り込む。

カイ
おい、大丈夫かよ。

ミーコ
……。

BGMが終わる。

■ 7 昼の和歌浦港 ↓ 蓬莱岩

LED には和歌浦漁港の海が映っている。

ミーコ、座り込んでいる。

カイとソラ、声をかける。

カイ ミーコ？

ミーコ え？

カイ おまたせ。行こら？

ミーコ あ、うん……。

カイ (ソラに) で？ どこ行くん？

ソラ ついてきたらわかるよ。

カイ もったいぶんなよ。

カイとソラ、歩き始めるがミーコは動かない。

カイ どうした？

ミーコ あのさ……、昨日の夢どうやった？

カイ ああ……

ミーコ 私の夢にカイさんとソラが出てきてん。

カイ ……は？

ミーコ 私の夢の登場人物として出てきたんよ。そうやった、カイさんの夢ってどうやったんやろう
って思っつて。

カイ いや、ちょお待って！ 俺の夢にもミーコとソラ出てきたんやけど。

ミーコ ……え？

カイ え、俺の夢に、二人が出てきたんちゃうん？

ミーコ いや、私の夢やろ？

カイ いやいや、俺の夢やって。

ソラ どっちの夢でもあるやろ。

二人 え……？

ソラ 夢が繋がってたんよ。夢の中で、同じ場所におったんよ。

カイ え、意味わからんのやけど。

ミーコ え、それって夢の中で、私たちが本当に会ってたってこと？

ソラ そう。

カイ なんよおそれ！ ロマンチックかよ！

ミーコ え、じゃあソラは？ ソラもおったんやで？

カイ 確かに。でも、ソラは夢見てへんのやろ？

ソラ ……それを確かめたくて、蓬莱岩に来たんよ。

三人が振り返ると、LEDに蓬莱岩が映っている。

カイ 面白い形の岩やなあ。これ何？

ソラ これが蓬莱岩。

ミーコ 懐かしい。ここ、昔ママと来たことある。

ソラ 兄ちゃん見覚えはない？

カイ え、俺ら来たことある？

ソラ ない。

カイ じゃあ知らんやろ。

ソラ よく見てよ。

カイ は？（蓬莱岩を眺めて）……あれ？ え、あれ！？ ここ、夢の中で爺さんが居った場所ちやう！？

ミーコ え？

ソラ ……やっぱりな。

カイ どういうこと！？

ソラ 今、全世界で同じ夢を見てる人が続出してる。その夢の舞台が、和歌山やねん。

うっすらとBGM（合唱「ねんね根来の」）が聞こえ始める。

カイ ……どういうこと？

照明がゆっくりと薄暗くなり、三人を不穏さな空気が包む。

■ 8 半夢の中

BGM (合唱「ねんね根来の」) が続いている。
ソラ、7場から引き続き夢について説明をする。

ソラ 夢を見てる人の投稿を見漁ったら、和歌山のことばかりやったねん。この蓬莱岩、和歌山城、和歌浦。具体的に書いてなくても、海とか岩山とか松とか、和歌山の特徴とあまりにも似てた。僕らがそんな夢を見ることは不思議じゃないけど、和歌山なんて名前も知らんような外国人まで和歌山の夢を見てるねん。

ミーコ なんで……? だって夢は記憶なんよな?

カイ そうやん。そんなんおかしいやん。

ソラ そう。経験したことないのに、記憶だけあるってことになる。

カイ なんよおそれ。

ソラ しかも、僕らは夢の中で会ってる。会話もしてる。夢は記憶を整理してるだけの筈やねん。やのに、繋がったってことは、それは僕らの記憶自体が、いや、僕らだけじゃなくて全世界の人の記憶がどこかで繋がってるってことになる。

カイ どういうこと!?! いや、どういうこと!?!

ソラ ……見てたよ、ずっと。

カイ え!?!

ミーコ なんで嘘ついてたん?

ソラ 認められるわけないやん! 僕たちが同じ夢を見て、僕たちだけじゃなくて全国、全世界の高校生が同じ夢を見るなんか、受けいれられるわけないやん。

カイ でも実際起きてるやん!

ソラ そんなんわかってるよ! でも……考えれば考えるほど最悪のことしか思いつかん。

カイ 最悪って?

ソラ あの夢が……予知夢なんじゃないか、とか。

ミーコ え……。

半夢の中だった空間が、完全に夢の中に変わる。

ハバリ、暗闇から現れる。

ハバリ 心を繋げよ。

カイ あ! また出た!

ハバリ 無限とも思える心は、元を辿ればたった一つ。無限の想いに辿り着け。一つの心を無限に広げよ。

カイ あのよお、何言ってるかわからへんから、ちゃんとやってくれへん?

ミーコ ちよっと、カイくん。

ソラ 心は元を辿れば一つっていうのは、僕らの記憶が繋がってるって意味ですよ? 元ってどこですか?

ハバリ ……お主らの心の奥深くに眠っておる。それは、遙か彼方より伝わる恐怖。触れる勇氣。辿り着く知恵がある者を待つておる。

ソラ ……え？

ハバリ ワシは待つておる。炎を統べる意思を。

ハバリ、闇に消える。

カイ あ、ちよお待つて！

カイ、ハバリを追いかけようとするが、どこにもいない。

カイ おい！なんやねん！

ソラ 炎を統べる意思？ 待つて…？

ミーコ ねえ、あれって…

立ち込めるモヤの中、ミーコの指差す方向（LED）には、矢宮神社が映っている。

カイ あれ、ここあそこや！あの、カラスの絵があるところ！

ソラ 矢宮神社や！

BGM（合唱「ねんね根来の」）が終わる。

三人、夢から醒め、矢宮神社に向かう。

■ 9 昼の矢宮神社 中央奥エリア ↓ 中央エリア

カイとミーコ、手を合わせ、参拝している。
先に参拝を終えるカイ。

カイ 懐かしなあ……。矢宮さんってこんな小さかったっけ。

間。

ミーコ、まだ参拝中。

カイ 長ない？

ミーコ、参拝を終える。

カイ この神様の、あの、カラス、えっと……

ミーコ 八咫鳥。

カイ そうそう、八咫鳥って何に効くん？

ミーコ 神様を温泉みたいに言わんといってもらっていい？

カイ あー、どんなご利益があるの？

ミーコ 勝運とか言われてるやんな。出世とか。

カイ マジで！？ おとんのヘルニアに効かへんやん！

ミーコ 温泉やと思ってるよね？

カイ もう一回やっところ。五円持ってる？

ミーコ もうない。

カイ さっき入れたからええか。ええよな？ 神様儲かっているもんな？

ミーコ 知らんけど。

カイ、再び参拝する。

ソラ、入ってくる。

ミーコ あ、どうやった？

ソラ (首を振り) ここにそんな人おらんで。

ミーコ え？

ソラ 熱心な参拝客の特徴も聞いたけど、あのお爺さんっぽい人はおらんみたい。

カイ マジで。詐欺やん。

ミーコ ここじゃなかったんかな……。

カイ いやいや、完璧にここやろ。ここにおるって言うてたやん。

ミーコ じゃあどこにいるの？

カイ あ、お賽銭ちゃう！？ お賽銭が少ないと出てけえへんのちゃう！？

ミーコ え、そういうルールなん？

カイ 　とりあえずあり金全部突っ込んで――
 ソラ 　出てくるわけないやん。
 カイ 　え？
 ソラ 　あんなん、信じる方がアホやったんやろ。
 ミーコ 　でも、ソラも同じ夢見てたやろ？
 ソラ 　あくまで夢な？ 現実で言われたわけでもなんでもなし。噴火も、爺さんも、夢の中のおとぎ話やろ。
 カイ 　でも、ここで諦めるのはつまらんくない？ とりあえずあり金全部突っ込んでみよら？
 ソラ 　お金の無駄。

ミツハ、いつの間にか三人の側に立っている。

ミツハ 　おやおや、こんにちは。
 三人 　こんにちは。
 ミツハ 　若い子おが来るとか珍しいなあ。
 カイ 　お婆さん、俺ら人探してて。
 ミツハ 　ああそうなんかい？
 カイ 　夢ん中に出てくるお爺さんなんやけどわかる？
 ソラ 　それでわかるわけないやん。
 ミツハ 　ああ……あんたらも見らんやなあ……。
 ミーコ 　え？
 カイ 　お婆さんも！？
 ミツハ 　毎日のように見るなあ……。お爺さんが先に逝ってもてから、もうずっとやなあ。
 ソラ 　え？
 ミツハ 　昔でいとした時のことやったり、結婚式のことやったりねえ。
 カイ 　は？
 ミツハ 　あたしらはね？ お見合いやったんやけどもね？ お爺さんたらもうずっと汗かいてしまつて――（笑）
 カイ 　これ、なんの話？
 ミーコ 　多分、旦那さんの話やな。
 ソラ 　あ、お婆さん。多分そのお爺さんのことじゃなくて。
 ミツハ 　結婚式でもな？ お爺さんたら、緊張で寝坊してもて――

ミツハの台詞終わり、BGMが聞こえ始め、同時に辺りが薄暗くなる。
 異空間に包まれるミツハ。

ソラ 　え……？

ミツハは、ハバリの声で喋り出す。

ハバリ声 長く長く待った……。それは、千四百万の年月。
 カイ ちょ……え？ お婆さん？
 ハバリ声 あれは、カグツチと名乗った。
 カイ この声、あの爺さんちゃう！？
 ソラ (カイに) 黙って！
 ハバリ声 カグツチはまたやってくる。それを追え。千四百万の年月。そして、カグツチを。
 ソラ カグツチって、あの、火の神様？
 ハバリ声 さよう。カグツチは、ヒトに与えることもすれば、奪うこともする。
 カイ え、どういう意味？
 ハバリ声 ワシはお主らを導くであろう。お主らは何を導く。
 ソラ 導く……？

BGMと異空間が消え、現実世界に戻ると同時に、ミツハも元に戻る。

カイ え……？
 ミツハ もうだいたい昔の話やけどなあ。
 ソラ 戻った……。
 ミーコ どういうことなん？
 ミツハ 今となったら良い思い出やなあ。
 カイ お婆さん、大丈夫なん！？
 ミツハ ええ？ もう落ち込んでなんかいませんよ。
 カイ いや、そうとちゃうくて。今、お爺さんやったやんな！？
 ミツハ はあ？ おかしなこと言うなあ。
 ミーコ 覚えてないん……？
 カイ 今、爺さんに乗っ取られたんやで！？
 ミツハ ……(笑)
 カイ 嘘ちゃうって！
 ミツハ 乗っ取られるなあ。そういうこともあるんかも知れへんなあ。
 ソラ え？
 ミツハ 矢宮さんの御神体は八咫鳥やからね。八咫鳥って知ってるう？
 カイ 三本足のでっかいカラスやろ？
 ソラ 神武天皇を導いたって……
 カイ え、さっき爺さんも導くとか言ってたよなあ！？
 ミツハ 神様の使いのカラスでな？ きつとお爺さんを私のところへ導いてくれたんかも知れへんなあ。
 ソラ そんな、ありえやん。
 ミツハ (笑) そうやなあ。でもなあ？ 私、八咫鳥の末裔なんよ？
 ソラ え……。
 ミツハ 血を分けあえた子孫に、そんなご褒美があってもええやないのお。どうせやったら私がお爺さんとお話したかったけどお。

ミツハ、笑いながら去っていく。
辺りが薄暗くなっていく。

ソラ 八咫鳥……カグツチ……。

カイ ちよお待って。よおわからのやけど、あのお婆さんは何者なん？

ソラ 八咫鳥の子孫。

カイ 子孫やから爺さんに乗っ取られたん？

ソラ さあ……。

カイ っつか爺さんは何者なん？

ソラ そんなんわかるわけないやん。

ミーコ でも、お爺さんも八咫鳥と関係があるっつことやんな……？

ソラ ……何者かはわからんけど、夢ん中のお爺さんが、あのお婆さんを通じて会いに来たのは事実やな。

カイ っつことは、これもう夢だけの話ちゃうやん。

間。

ミーコ ねえ……もう帰ろう？

ソラ ……そうやな。ちよつとあとで二人に聞いて欲しいことある。

三人、矢宮神社を去る。

■ 10 夜のミーコ宅

ミーコが帰宅し、カイとソラもついてきている。

ミーコ ただいまあ。

カイ お邪魔しまーす。

ミーコ ママあ？

カイ ……あれ？ まだ帰ってきてへんの？

ミーコ、ナミに電話をかける。

ソラ ちょっと机借りるな。

ソラ、リビングのテーブルにノートを広げ、何か書き始める。

カイ (ソラに) 何やってんの？

ソラ ……。

カイ え、シカト？

ミーコ、電話を切る。

カイ 出えへんの？

ミーコ まだ仕事かな……。

カイ えー。久々に会いたかったなあー。

ソラ なあ……。あれ、本当に予知夢なんかもしれへん？

ソラ 全世界の人が夢で見る噴火。あれは、本当に予知夢かもしれへん。

カイ え、あの噴火がマジで起こること！？

ソラ これから起こるかはまだ定かじゃない。けど、可能性はある。

ミーコ ……なんでわかるん？

ソラ 昔にも大噴火があったんよ。地球全体に影響を及ぼすようなドデカイ噴火が。

BGMが聞こえ始めると共に、照明が変化し、遙か過去の回想。

ツカイたちが過去の生物として徘徊する。

ソラ まだ日本列島にほとんど山が無かった頃、広大な湿地にはゾウやワニの祖先が暮らしてた。そこで火山活動が始まって、超巨大カルデラ噴火が起きた時、地下に溜まっていたマグマは一気に噴出して内部の大地は大きく陥没した。そして一日2000mにもなる大量の火山灰が降り積もって、世界の気温が10℃も下がって、世界中の生物を絶滅させたとも言われている。

ツカイたちが次々と倒れていく。

カイ マジで？ それ日本の話？

ソラ そうやで。

ミーコ いつの話なん？

ソラ ……1400万年前。

ミーコ え……？

カイ ちよお待って？ あの爺さんも千四百万とか言ってたわな？

ソラ そう。お爺さんはずっとこの噴火のことを言ってたんよ。それに「カグツチ」とも言ってた。

ミーコ 火の神様やんな？

ソラ 多分この大噴火をカグツチって呼んでるんやと思う。

カイ じゃあ「カグツチを追え」っていうんは、その大噴火を追ってこと？

ソラ そういうことやな。

カイ いやいや、意味わからんくない？ どこにおんの？ ってか、どっちかって言われたら追われる側ちゃう？

ミーコ そうやん。早く逃げやんと。

カイ そもそもどこが噴火すんの？

ミーコ 1400万年前と同じところ？

カイ それどこ？

ソラ ……ここ。

カイ ……え？

ソラ、PCを取り出して二人に見せる。

ソラ カルデラ噴火の噴火口は、南北40キロ、東西23キロにも及ぶ半円形って言われてる。

カイ 半円形。

ソラ そんなおっきな裂け目に残ったマグマは、時間かけて固まって、硬い岩になって、今もその姿を見ることが出来る。

台詞と連動するように、LEDに景勝地が映し出される。

ソラ それが古座川の一枚岩やねん。

カイ 嘘やろ……。

ソラ 一枚岩だけじゃない。那智の滝、橋杭岩、ゴトビキ岩もカルデラ噴火の影響によるもんやっ
て言われてる。

LEDに和歌山県の地図が映し出される。

台詞と連動するように、噴火の後がピン留めされる。

ソラ 他にも和歌山はあちこちに溶岩の固まった跡や大きな噴石があって、それを繋ぐと――

LEDの地図にピン留めされた箇所が線で繋がれ、火口が映される。

カイ 半円形になってるやん！

ソラ つまり、日本の歴史で最大の火山の火口は、この和歌山であることを意味してるねん。

LEDが消える。BGMが終わる。

長い間。

カイ ……ちょっと、笑うしかないんやけど。

ソラ どう思う？

カイ 何が？逆にどう思えばええんか教えて？

ソラ こんな仮説が現実起こると思う？

カイ これ仮説なん？俺にはもう、確実に起こるとしか思えやんのやけど。

ソラ ……ミーコはどう思う？

ミーコ 私は……

ミーコ、言葉を失い、慄く。

ソラ とりあえず僕はもう一回お爺さんと話したいと思って、明日も矢宮さん行ってみやん？

カイ 行くしかないやろ。

ミーコ ……。

二人は、ミーコの様子を気に掛ける。

カイ とりあえず明日は俺らだけで行ってみよか？

ソラ そうやな。

ミーコ ごめん……。

ソラ 何かわかったら連絡するわ。

カイ ほなまた！

カイとソラ、去る。

一人になったミーコ。夜の静けさに、また恐怖を感じる。

BGM（合唱「ねんね根来の」）が聞こえてくる。

辺りが薄暗くなり、夢の中へ。

■ 11 夢の中

BGM (合唱「ねんね根来の」) が続いている。

ツカイたちが徘徊している。

ミーコ、一人彷徨っている。

ミーコ ママあ……。ママあ……。カイくん。ソラあ……。

ツカイたち、ミーコを持ち上げたり、進行方向を変えたり。

ミーコは迷走している様子で、名前を叫び続ける。

カイ、出てくる。

カイ おーい！ミーコお！ソラあ！

ツカイたちが、霧のようにカイを包み、カイは上手く動けない。

カイも迷走した様子で、名前を呼び続ける。

ソラ、上手奥から出てくる。

ソラ 兄ちゃん！ミーコ！

ツカイたちが、ソラを囲み、行手を阻まれる。

ソラも迷走した様子で、名前を呼び続ける。

三人は、それぞれ名前を呼びながら彷徨い、出会えない。

ハバリが現れ、ツカイたちがハバリの影となりうごめく。

ハバリ 共であってはならぬ。心は個として存在する。お主らも個として成れ。

ミーコ もう……なんなん？ 私たちにどうしろって言うんよ！？

ハバリ カグツチの怒りを鎮めよ。

ミーコ だから！そんなこと言われたって、どうしろって言うんよ！

ハバリ 古い古い岩を求めよ。そこは八百を超える魂が眠る。ワシは魂と共に二つの顔を持つ人形へ宿るであろう。岩の橋へ進め、八咫鳥の子らよ。

ミーコ 八咫鳥の子……？

ハバリ、去る。

BGM (合唱「ねんね根来の」) が終わる。

■ 12 朝の公園

ソラ、座って歴史資料を見つめ、考え込んでいる様子。
カイ、ソラの様子を伺う。

カイ ……どうする？

ソラ ……。

カイ ……とりあえず、矢宮さん行ってみる？

ソラ ……。

カイ 俺行ってきたいい？

ソラ うっさいなあ！ 兄ちゃんも一緒に考えてよ！

カイ せやったら情報共有しろや！ 俺が一人で考え込んでもわかるわけないやろ！？

ソラ もっと考えろよ！ お爺さんが指示する場所が変わってたやろ！？ 矢宮さんに行く意味ないやん！

カイ どこかわからんのやったら行ってみたってええやろ！？

ソラ 次の場所見つける方が優先に決まってるやん！

カイ それは…それはお前に任せる！

ソラ 一緒に考えろよ！ 一人で行こうするねん！

カイ 考えてあかんのやったら行動した方が何か起こるんよ！

ソラ 兄ちゃんは考えずに行動し過ぎ！

カイ はあ！？

ソラ そんなん、自分がアホってこと言い訳にして、考えることをサボってるだけやん！

カイ せやったらお前は、考えてばっかり過ぎや！

ソラ 考えることの何が悪いねん！

カイ 疑ってばかりで行動力がない！ そんなん結局勇気がないだけなんよ！ わからんことに飛び込む度胸がないから考えてるだけやろ！？

ソラ、カイを突き飛ばし、二人は掴み合う。

ミーコ、駆け寄って来て、二人を引き離す。

ミーコ ちょっと待って！ 何やってんの？

二人 ……。

ミーコ 何？ なんで喧嘩なんかしてるん？

ソラ 別に。兄ちゃんが無意味なことしようとしてたから止めただけ。

カイ あ、お前まだ言うんか？

ミーコ やめてって。

ソラ 何？ どうしたん？

ミーコ いや、昨日の夢で二人と会わなかったから…

カイ そう！ 俺らも会わなかったんよ。

ミーコ やっぱり…。

ソラ 「共であってはならぬ」

カイ え？

ソラ お爺さんが言ってたやろ？ 一緒じゃあかんってことちゃう？

カイ なんよおそれ。俺ら別々に来いってこと？

ソラ 知らんけど。

カイ まあ俺は別にええけど、ソラは無理やろなあ。度胸ないから。

ソラ 兄ちゃんはどこ行くかもわからんまま終わるやろな。アホやから。

カイ ちよ、こいつのひねくれ具合どう思う？

ミーコ ……。

カイ ミーコ？

ミーコ あ、ごめん。

カイ どうしたん？

ミーコ あのさ……昨日結局ママが帰ってこんくて。

カイ え？

ミーコ 連絡も無いし、大丈夫かなって。

カイ え、それヤバない？

ミーコ あいや、今までも仕事で帰ってけえへんことかあったやだけ……。

ソラ じゃあ昨日もそうやったんちゃう？

ミーコ そうやと思うんやけど、なんか夢のこともあって、一人やと怖くなっちゃって……

カイ 心配することないって。もし今日も帰ってこへんかったらうち泊まればええやん！

ミーコ うん……ありがと。

カイ 夢のこと大丈夫。俺らに任せとけば一瞬で解決するしな。

ソラ じゃあ兄ちゃんも考えろよ。

カイ 考えてるって言うてるやろ！？ お前しつこいとこあるぞ！？

ミーコ あのさ、私もね、ちよっと考えてみたんやけど……。

カイ え、何なに？

ミーコ 古い岩って言ったらやっぱゴトビキ岩とか、一枚岩なんかなって思っ

カイ 確かに。

ソラ 人形って言ったら淡嶋神社やろ。人形には魂が宿るって言うし。

カイ 確かに！

ミーコ でも、淡嶋神社の人形って八百どころとちゃうんやで。

カイ 確かに。

ミーコ それに古い岩とも繋がらんよね。

カイ ……お手上げやな。

ソラ だから早いって。

ミーコ あと、なんかもって言ってた気がするんやけど記憶が曖昧で。カイくんは覚えてない？

ソラ え？ 他になんか言ってたん？

ミーコ 多分……。

カイ 他？ あー、ちょっと待って？ えー、あ、「岩の橋へ進め」って言った。

ソラ は？ 他にあるんやったらなんで早く言わんねん！

カイ 二人がどれを覚えてるかなんて知らんやろ！

ソラ (歴史資料をめくり) 岩の橋、岩の橋……

ミーコ あ……。

カイ え？

ミーコ 岩の橋って橋杭岩のことかな。

カイ え、何それ。

ミーコ ほら、あるやん。細長い岩が並んで、橋を支える杭みたいになってるところ。

カイ え、絶対それやん！ そこ行こら！

ソラ 待って！

カイ またかよ！ さっさと行かんとか大噴火起きてまうぞ！？

ソラ まだ八百の魂も二つの顔を持つ人形も解決してない。

カイ せやからさあ……行ってみたら何かわかるかもしれないへんやろ？ もしかしたら橋杭岩の近

くに魂があるかもしれやんやん？

ミーコ 魂があるってどういうこと？

カイ え？ せやから、ほら、心霊スポットとか……あ、お墓とか？

ソラ え、お墓？

カイ 例えばやで。行ってみたらわかることもあるやろって話。

ソラ それや……。

カイ え？

ソラ 魂が眠るってお墓のことや！ 八百を超えるお墓！ それに、岩と橋！

カイ え、何々？

ソラ 確か、岩橋って書いて「いわせ」って読む古墳があったような——あった！

ソラ、歴史資料を二人に見せる。

ソラ 岩橋千塚古墳！

カイ ここやん！

ミーコ 名前のことやったんや！

ソラ しかも、この古墳には両面人物埴輪っていう埴輪がある。

カイ 何それ？

ソラ 二つの顔を持つ人形やで。

三人、岩橋千塚古墳に向かう。

■ 13 半異空間の岩橋千塚古墳

BGMが聞こえる。

LEDには、岩橋千塚古墳の映像。

ツカイで両面人物埴輪を象徴。

三人、岩橋千塚古墳に来ている。

カイ これが両面人物埴輪……

カイ、埴輪に触れる。

すると、明かりが変化し、異空間表現。

両面人物埴輪が動き出し、ハバリの声が聞こえる。

ハバリ声 夢の意味は知ったか？

カイ え、夢の意味って？

ソラ 1400万年前に世界を滅ぼすほどおっきな噴火があったんですよね？

ハバリ声 起きたことに意味はない。

ソラ え、じゃあ……その噴火がまた起きようとしてるって警告ですよ。

ハバリ声 起きることに意味はない。

ソラ え……？

ハバリ声 お主らは何処へ向かう？

カイ 俺らがその噴火を止める！

ハバリ声 止める……。お主らがカグツチの怒りを鎮めると？

カイ そう！俺らが鎮める！

ハバリ声 では、カグツチの怒りの矛は何に向いておる。

カイ え……？怒りの矛？和歌山？

ソラ は？なんでやねん。和歌山が何したって言うねん。

カイ いや、わからんけど。

ハバリ声 お主らは、何故カグツチを忘れてしまった。

カイ いや、忘れたって言うか、知らなかったんやけど。

ハバリ声 何故忘れた。

ミーコ それは、ママとか、お婆ちゃんとか、そのお婆ちゃんとか、ずっと前の人が教えてくれへんかったから……。

ハバリ声 お主らは何で知る。

カイ なにで？

ミーコ 本とか、絵とか……

ハバリ声 何故人は立ち上がる。何故人は歩く。どのように知る。

カイ そんなん、知るとか知らんじゃなくて、勝手に出来るようになるやろ。

ハバリ声 思い出せ。カグツチの怒りを。

ツカイ扮する埴輪が崩れ、消える。

カイ え……？

ミーコ どういうこと……？

三人、呆然と立ち尽くす。

BGMが終わると共に異空間が消え、現実世界に戻る。

■ 14 夜のカイソラ宅

クシナ、帰宅した三人を出迎える。

クシナ おかえりい。

カイ ただいま。

ミーコ お邪魔します。

クシナ ああミーコちゃん、入って入って。

ミーコ 急にすみません。

クシナ いいのいいの。ママ大変ねえ。まだ連絡取れない？

ミーコ ……はい。

クシナ どうしちゃったのかしらねえ……。

ミーコ ……。

クシナ きっと大丈夫よ！明日、私も色々聞いてみるから。ね？ナミちゃん仕事熱心過ぎるところ

あるから、きっと手が離せなくなっちゃったのかな？

ミーコ はい……。

クシナ ほら、元気出して？ご馳走作ってあるから、みんなで食べよ？

ミーコ ありがとうございます。

カイ あれ？おとんは？

クシナ あ、それがねえ……。お父さんも連絡つかないのよ。

カイ え……？おかしい？

クシナ おかしいわよ。もしかして夜遊びかしら。帰って来たら白状させてやる。

カイ いや、そういうことちゃうくて。

クシナ ほらほら、すぐ支度するから手洗ってね。

クシナ、去る。

ミーコ おじちゃんまで……？

カイ なんかヤバない？これ、夢と関係あんの？

ソラ わかるわけないやん。

カイ ちよおこれ、カグツチ追ってる前に二人探した方がええんちゃうん？

ミーコ うん……。

ソラ でも、もし二人の音信不通が何か関係あるんやったら、カグツチの解決も急いだ方がいい。

カイ それも確かに……。

間。

ソラ さっきの話、僕なりに解釈したんやけど聞いてもらっていい？

ミーコ うん。

ソラ 前の夢でお爺さんが「無限の想いに辿り着け」って言ってたねん。

カイ 言うてた言うてた。
 ミーコ ソラは、記憶が繋がってるって解釈してたやんな？
 ソラ 人には集合的無意識っていう領域があつてな？
 カイ は？
 ソラ 人間の意識の奥には無意識があつて、その奥には集合的無意識があるねん。
 カイ いや、その集合的無意識ってなんなよ。
 ソラ 簡単に言えば、人類全ての記憶が集まってる場所。
 カイ それ、簡単に言ってる？
 ミーコ それは……私たちの記憶も？
 ソラ もちろん。
 ミーコ それが「無限の想い」って言葉の意味？
 ソラ おそらく。集合的無意識は、人間の本能のようなものを知る場所なんやと思う。
 ミーコ 本能……？
 ソラ 今日お爺さんは、僕たちにこう聞いた。「何故忘れた？」って。
 カイ 聞かれた。忘れたも何も、そもそも知らんて。
 ソラ 逆に考えたら、僕たちは知ってるってことなんよ。
 カイ 逆ってなんなよ。なんの逆やねん。
 ミーコ それは、集合的無意識には、カグツチの記憶もあるってこと？
 ソラ そう。お爺さんはきつと、人間が立つことも、歩くことも、そこで知ったんやろ？ っていうてるんやと思う。
 ミーコ やのに、なんでカグツチのことは忘れたんや、ってこと？
 カイ 待つて待つて！ じゃあ何！？ 俺らがその、なんとか無意識からカグツチのことを知れてること！？
 ソラ おそらく。
 カイ 何処やねん！ まずなんとか無意識の行き方を教えてくれや！
 ソラ いや、もう僕らは行ってる。
 カイ え？
 ミーコ ずっと見てる夢が、そうやんな？
 ソラ それにあっちこっちでお爺さんが話しかけて来る時も。
 カイ めちゃくちゃ行ってるやん！
 ミーコ でもさ、赤ちゃんの頃に立つこととか歩くこととかは本能としてわかるけど、噴火の何を知ればええん？
 ソラ そこやねん。噴火の歴史は本読めばわかるし、実際僕らはそれをもう知ってるわけで。
 ミーコ お爺さんの言葉で言えば、私たちはもう思い出してるやんな？
 ソラ うん……。

ミーコのスマホから SNS の通知音が鳴る。
 ミーコ、スマホを見る。

カイ おばちゃん？

ミーコ ううん、また噴火の夢の投稿が拡散されてるんよ。
ソラ まだ増えてるってことか。
ミーコ あれからね、お爺さんのことも投稿してるんやけど、それは全く拡散されへんの。
カイ え？
ミーコ 他の人の夢、色々読んでてもお爺さんが出て来た人がおれへんみたいで……。
カイ それって、爺さんと会ってるのは俺らだけってこと？
ミーコ そういうこと、やんな？
カイ え、俺ら何者なん？
ソラ ……八咫鳥の子。
カイ え？
ソラ お爺さんは、僕らをそう言ってた。

BGMが聞こえ始める。

三人を異空間が包む。

■ 15 半異空間の友ヶ島

BGMが続いている。

LEDに友ヶ島が映っているが、現実世界と異空間が混ざり合っている。

友ヶ島に降り立ったミーコ、カイ、ソラ。

カイ 今度は友ヶ島か。

ミーコ 友ヶ島って、カグツチと何か関係あるん？

ソラ 神話って意味では関係してるよ。少彦名（すくなひこな）と大己貴（おほむなじ）が神島に祀られてる。

カイ 誰？

ソラ 日本を創造した神様。

カイ え、やば。

ソラ あと、神島は修験道の始まり地ともされてる。

カイ しゅげんどう？

ソラ 山にこもって厳しい修行をすること。

カイ へえー。

ミーコ え、私たちもそれやるん？

ソラ それはわからんけど、そういう場所に来させられたってことは、そういう覚悟を持ってってことなかな。

カイ 燃えるわあ。

ミーコ お爺さん、どこにおるんやろう。

ツカイたちがうごめく中、ヤマトが現れる。

驚く三人。

カイ え！？ おとん！？

ソラ なんで……？

BGMが雅楽から合唱「堺 住吉 いとまの太鼓」に乗り替わる。

ヤマトはハバリの声で喋り出す。

ハバリ声 ワシは、お主たちの父である。

カイ おとんまで爺さんかよ……。

ハバリ声 そして、その父でもあり、脈々と続く父でもあろう。

ソラ お爺さんは、僕たちの先祖ってこと？

ハバリ声 先祖の意識の集合とも言おう。

カイ またわけわからんことを……。

ハバリ声 遥か昔の出来事……。豊かさを求めた人間の長は、「言語」と「文字」を得る契約を神と結んだ。

ソラ 契約？

ハバリ声 「言語」と「文字」は、今まで野を這っていたものを牛や馬として認識し、人類だけを区別した。集団で狩りを行い、数を数え、管理し、社会と文化が生まれた。文明である。しかし、その引き換えに失ったモノは大きい。何かわかるか？

ミーコ 集合的無意識のこと……？

ソラ つまり、「記憶」？

ハバリ声 さよう。それまでの人類は、脳に「記憶」を残してきた。それは「心」とも呼ばれる。炎の恐怖は、炎の文字にはあらず。炎の熱は、炎の絵にはあらず。全ては心が知っておる。

ミーコ 私たちがお爺さんの夢を見るのは、私たちの心に伝える為？

ハバリ声 さよう。言葉と文字は「記録」を産み落とした代わりに、「記憶」の力を弱めている。しかし、その力をまだ強く宿しているのが、継承者の血筋なのだ。

ソラ 継承者……？ 僕たちが？

ハバリ声 言葉や文字の氾濫に抗い、太古の記憶を現代まで引き継ぐ、継承者の種族。そんな我々は、「八咫鳥」と呼ばれている。

カイ ちょお待って！ そんな太古の記憶とか、全然わからんて！ 普通に言葉使って、本で勉強して、俺らは周りとも変わらんから！

ハバリ声 現代では、八咫鳥の力も弱まっておる。それでもお主（カイ）は覚えておったのだろうか？
カイ 俺……？

ハバリ声 お主はワシの言葉をしかと記憶した。お主（ソラ）は、先に起こるであろうことを想像した。そして、お主（ミーコ）は、カグツチの恐怖を知っておった。それが力の証だ。

三人、絶句する。

ハバリ声 受け取れ。カグツチの怒りを鎮める役目は、先代からお主らへ託される。

ヤマト、三人に護符を渡す。

三人、護符を受け取る。

■ 16 朝のカイソラ宅の庭

三人、庭に倒れている。
クシナ、家から出てきて来て驚く。

クシナ　ちょっと何！？庭なんかで寝て！何してんの！？

三人、それぞれ目を覚ます。

クシナ　ミーコちゃんまで何やってんの？

ミーコ　え……？

クシナ　ほら、起きて起きて。もう、出かけたのかと思ってたわよ。ビックリさせないで。

クシナ、去る。

カイ　え、俺ら友ヶ島おったやんな？

ソラ　なんで？

ミーコ　夢……？

ソラ　父さんは！？

ヤマト、スーツ姿で出てくる。

ヤマト　おおおはよう。

カイ　おとん……おる。

ヤマト　なんなよ。おったら悪いんか？

ソラ　父さん、昨日友ヶ島おった？

ヤマト　友ヶ島？行ってるわけないやろ。昨日も仕事やぞ。

カイ　夜中も？

ヤマト　おいおい、夜中に行けるわけないやろ？

ソラ　じゃあ夢で僕らに会った？

ヤマト　……何言ってるの？

クシナ、弁当を持って出てくる。

クシナ　お父さん！お弁当忘れてる！

ヤマト　あ、しもた。

カイ　やっぱ夢やったんかな？

ミーコ　（ヤマトに）あの、昨日っていつ頃帰って来たんですか？

ヤマト　ああ……それがなあ……。

クシナ　覚えてないんだって。

ソラ え？

ヤマト いや、会社出て家に帰ってたと思うんやけど、途中の記憶無くて……。気付いたら布団やっ
たんよ。

クシナ そんな言い訳が通用すると思ってるの？

ヤマト ほんまなんやってえ！

クシナ もうちよつとマシな言い訳考えられなかったのかしらねえ。

ヤマト 信じてくれよお！

クシナ 仕事遅刻するわよ？

クシナ、去る。

ソラ、ヤマトに近づき、足元を注視する。

ヤマト ママあああ！

ソラ 父さん！

ヤマト ん？

ソラ 靴、土ついとる！

ヤマト え？ ほんまや！ なんやこれ！ ママあ！

ヤマト、去る。

ミーコ ねえ！ 私たちの靴も！

カイ ほんまや……。

ソラ 夢じゃない。僕たちも、父さんも友ヶ島におったんや。

ミーコ でも、おじちゃん嘘ついてる感じとちゃうよ？

カイ 爺さんに乗っ取られてたから覚えてへんってことか。

ソラ ってことは、おばちゃんもそうなる可能性がある。

ミーコ ママ……。

カイ、ポケットに入っている護符に気づく。

カイ なあ！ これ！

ミーコとソラもポケットから護符を出す。

ソラ 父さんがくれた護符や……。

ハバリ声 全てを溶かしたマグマに触れる。

三人、ハバリの声に驚いて振り返る。

そこには、ヤマトが立っている。

ヤマト　　ん？ どうしたん？
カイ　　いや……なんでもない。
ヤマト　　？ ほな、いってくるわ。

ヤマト、去る。

BGMが聞こえ始める。

■ 17 半異空間の古座川の一枚岩 ゲートと中央エリア

BGMが続いている。

LEDに一枚岩が映っているが、現実世界と異空間が混ざり合っている。

一枚岩を眺めているミーコ、カイ、ソラ。

カイ これがマグマ？

ソラ そう。溶岩が冷えて出来た一枚岩。

カイ え、一枚岩って、これで一つってこと！？

ソラ そうやで。

カイ どんなレベルの噴火やねん。

ソラ だから、世界が減びるほどなんよ。

ミーコ ……。

ソラ 大丈夫？

ミーコ うん……。ママ、いてるんかな。

ソラ 多分な。

BGMが雅楽から合唱「Song of hope」に乗り替わる。

ナミを探す三人。

人影が現れ、それがナミだとわかる。

ミーコ ママ！

ナミはハバリの声で喋り出す。

ハバリ声 ワシは、お主たちの母である。そして、その母でもあり、脈々と続く母でもあろう。

ミーコ ママ……。これなんなん？

ハバリ声 人類が繰り返し返す行い。それは、記録することを選び、滅びる。幾度となく繰り返してきた。

カイ こんなことが何回も？

ハバリ声 さよう。多くの文化は発達したが、生物としてのヒトを退化させた。生まれたばかりの赤子が母のおっぱいを吸うこと。自身の異変を伝える為に泣き叫ぶこと。立ち上がり、歩行を覚えること。

カイ え、ちょお待って。それおかんが言ってた！

ソラ え？

カイ おっぱい飲まへん赤ちゃんが生まれてるって。

ソラ もう始まってらんや……。

ハバリ声 無論肉体に限らない。他人を想う力。過去を受け入れる力。未来を願う力。現世の願いこそ、子孫に引き継がれていく記憶である。動物の進化とは心の力である。しかし、どうじゃ？心をないがしろにしたお主らをヒトと呼べるのか？

カイ そんなこと言われても……。

ハバリ声 神はそれを憂い、怒り、人類に終焉を与える。その神こそ、カグツチなのだ。待ち受ける大噴火は、カグツチの矛である。過去何度も繰り返され、その度、継承者は鎮める儀を委ねられた。祈りが届かねば人々の命は一人残らず焼かれ、この世界を神の手に戻すことになる。

カイ マジで……？

ミーコ そんなん、私たちはどうしたらええん？

ハバリ声 ……記憶を担う他にない。過去、現在、未来。全ての記憶を担い、人類の心に刻み続ける。

ソラ 記憶を担う……？

ハバリ声 それは、誰にも想像出来ない苦しみも同時に担うであろう。だからこそ、過去、カグツチの怒りを鎮めた者はいない。人類は何度も終焉を迎えてきたのだ。

三人、押し黙る。

ハバリ声 ワシは、記憶の扉で待つておる。カラスに導かれよ。

間。

ナミ ミーコ……。

カイ え！？

ミーコ ママ！？

ナミ 継承者は……記憶を宿すっていうのは……あなたたちを失うことになる……。

ミーコ どういうこと？

ナミ 全ての記憶は、人の体には到底受け止め切れない……。あなたたちは、記憶そのものになっ
てしまう……。

カイ 記憶そのもの？

ナミ 世界は救われても、あなたたちは……

ツカイたちはゆつくりとナミを覆い、ナミは霧に包まれるように消える。

ミーコ ママあ！

BGM (合唱「Song of hope」) が終わる。

■ 18 夜の西の丸広場

ソラ、座って歴史資料を読んでいる。
ミーコ、座ってスマホを弄っている。
カイ、和歌山城を眺めている。

カイ やっぱ和歌山城はカッコええなあ。
ミーコ ……なんよ急に。
カイ いや、なんか。ふと思つて。カッコよくない？
ミーコ ……まあ。そうやな。

間。

カイ ……あ、おばちゃん帰ってきた？
ミーコ うん。
カイ 何か覚えてた？
ミーコ ううん。
カイ そっか……。

間。

カイ こんなところで本読んでたら目悪なるぞ？
ソラ ……記憶になのに、視力って関係あるん？
カイ 確かに。
ソラ ……。
カイ なんの？ 記憶。
ソラ ……さあね。
カイ つてか、どういう意味？ 記憶になるって結局何なん？
ソラ ……正確には、人類が持っている記憶を思い出す為の、脳内信号になるってことやな。
カイ もっとわからんのやけど。
ソラ お爺さんが夢の中で僕らにアクセスしたみたいに、人類の脳に僕らがアクセスするみたい
な？
カイ 俺らがみんなの夢ん中に出んの？
ソラ そうなんかな。
カイ あはは……忙しなるなあ。

カイ、現実離れた話に笑えてくる。

ミーコ お爺さんはさ、世の中がどんどん便利になること否定してるんやんな？
ソラ ……そうやな。

ミーコ 当たり前前に便利なものを求めてたけど、何を失ってるかなんて考えもせえへんかった。けどよ、そんな、記憶を失ったって言われても、覚えてへんことはわからんくない？

ミーコ それはそうなんやけど、記憶ってのはもつところ、なんて言えばええんかな……

ソラ 精神性やんな。

カイ 精神性？

ソラ 僕たちは、利便性を求めるがあまり、物事を物質的にしか理解出来なくなってる、でもお爺さんは、物事に宿る精神性を大事にしるって言ってる。

カイ せやから、精神性ってなんやねん。

ソラ それは……自然が持つ力とか？

ミーコ あ、想像力とかとちゃう？

カイ 想像力？

ミーコ 今はさ、調べればなんだってわかるし、友達の行動とか気持ちとかだって調べられるような時代でさ。それは便利やけど、その分、想像することはしてない気がする。

カイ 確かに。直接会わなくても済んでまう的なね？

ミーコ 人との繋がりは言葉やと思ってたけど、言葉で解決出来ひんこととか、言葉で傷つけあうことの方が多いいよな、ネットとかやと特に。

カイ ああ、そうやな。

ミーコ それに、ママとか、カイ君とかソラとか、大好きなみんなへの気持ちって、言葉じゃ言い表せんくて、やのに、普段の生活では大切な時間をないがしろにしちゃってたりして。

カイ それも記憶の力が弱まってるからなん？

ミーコ そんな気もする。

ソラ 本読んだり、ネットの情報から知った気になってたけど、お爺さんと会ってるうちに知らんことばっかりなんやなって思い知らされたよな。

カイ それは、確かになあ。

ミーコ 私、この夢を見てから……いや、多分見るもつと前から、なんかわかんけど、怖いって思うことが多かったねん。幸せな時間のはずやのに、なんか怖くて。

カイ うん。

ミーコ それって、多分そういう幸せがいつか終わるような気がしてたからで、っていうか、自分がその幸せを続けられる力が足りないってわかってたのかも。

ソラ 人間本来の力？

ミーコ そう。今生きていることを大切にすることとか、未来を信じるってことって、すごく大事な力だなって思うの。

BGM (合唱「Ave Maria」) が聞こえて来る。

ミーコ やからね？ 継承者なんて呼ばれた私たちが、神様に願いを捧げることで、もしヒトが人を想い合う未来が続くなら、すごくいいなって。

カイ そりゃあすごいことやわ。

ミーコ ……私たちは、何を思い出すんやろうね。

間。

ソラ ミーコは、記憶になるってこと？

ミーコ ……うん。

カイ もう怖ないんか？

ミーコ ……いや、今までより、ずっと怖いけど。

三人、少し笑う。

ミーコ 八咫鳥って人類を導く存在なんよな？

ソラ そうやな。つまり、僕らは人類を導く存在やな。

カイ ……なったるかあ。八咫鳥。

三人、決意に満ちた表情。

三人が護符を握ると、辺りを異空間が包む。

そこに、現れる神々。

三人の決意を祝うかのように賑やかな音楽を取り囲む。

その中にハバリが現れる。

■ 19 異空間 ↓ 記憶世界

ハバリ、三人に歩み寄る。

ハバリ 待っておったぞ、八咫鳥の子らよ。

カイ さっさと行こらあ。

ハバリ 人類が失ったものを知ったか？

ソラ それは、記憶です。

ミーコ 今、人類が覚えている大事なことも、忘れてしまった大事なことも、私たちが繋ぎます。

ハバリ、三人をゆつくりと見つめ、満足そうに歩みを進める。

ハバリ では、参ろう。

一同の前に那智の滝が現れる。

カイ 那智の滝……？

ハバリ 遙か昔、カグツチの怒りによって生まれた絶壁である。お主らは、記憶の片鱗に触れるがよい。

BGM が流れると共に、記憶世界が混ざる。

そこは遙か昔。人類が命懸けの狩りをしている記憶。

記憶の住人に囲まれ、逃げ惑う三人。

カイ、ソラとミーコを庇うようにはぐれる。

ソラ 兄ちゃん！

ミーコ カイクン！

カイ、記憶世界に混ざる。

ソラとミーコ、カイを必死で呼ぶが声が届かない。

カイ、記憶世界の住人に同化する。

ソラ 兄ちゃん！

ミーコ これなんなん！？

ソラ わからん！ 僕らの声が聞こえてない！（ハバリに）どうということなん！？

ハバリ ほお……記憶に混ざり始めたようじゃ……。

傍観することしか出来ない、ソラとミーコ。

カイ、記憶の住人たちを引き連れ、記憶世界へと続くゲートへ向かっていく。

カイ、ゲートの前で足を止め、二人に振り返る。

ソラ 兄ちゃん！

ミーコ カイクン！

カイ、ゲートへ走り去る。

BGMが終わると共に、記憶世界が消える。

絶句するソラとミーコ。

ハバリ 勇気のある子じゃ……。

ソラ ……どゆこと？

ミーコ カイ君は！？ カイ君はどこに行ったん！？

ハバリ あやつは、記憶の中に歩みを進めた。

ソラ え……？ 記憶の中って……

ミーコ カイ君は、先にカグツチのところへ行ったん……？

ハバリ さよう。ワシらも先へ進もう。

三人を異空間が包む。

■ 20 異空間 ↓ 記憶世界

一同の前に、ゴトビキ岩が現れる。

ソラ ここは……ゴトビキ岩？

ハバリ これは、カグツチの怒りによって落とされた大岩である。お主らに何を見せるのかのお。

BGMが流れると共に、記憶世界が混ざる。

そこは遠い未来。人類が生活している様子。

記憶の住人たちは、無感情に歩いている。

ミーコ、怖くなりソラの袖を掴む。

ソラ これは、どこ……？

ハバリ いつかの世界であろう。

ミーコ これ、人……？ 何してるの？

ハバリ 活動しておる。

ソラ 活動……？

ソラ、記憶の住人たちに近づこうとするが、ミーコが袖を引く。

ミーコ ソラ……。

ソラ ……大丈夫。いつまでもビビってたら、また兄ちゃんに馬鹿にされてまう。

ゆっくりと歩みを進めるソラに、ミーコの手が離れる。

ソラ、記憶の住人たちの間を歩く。

ソラ あの……。あの……。なあ……。あの……。

ソラ、住人に声をかけるが、全く反応がない。

ソラ ……なあ！……おい！

ソラ、住人たちに触れたり、掴んだりするがやはり反応がない。

孤独が膨らんでいくソラ。

ソラ ねえ！……おい！……おい！……おい！

ソラ、住人の一人を掴み、絶望する。

ソラ ……こんなん、生きてるって言うんかよ！

ソラ、意を決して記憶の住人を抱きしめる。
すると、記憶の住人たちはゆっくりとソラを囲む。
ソラは、少し戸惑いながらも凛々しく住人たちをコンタクトを取る。
そして、ソラは共に触れ合う住人たちと、記憶世界へと続くゲートへ向かっていく。

ミーコ ソラあ！

ソラ、少しだけ振り返るが、そのままゲートへ去る。
BGMが終わると共に、記憶世界が消える。
一人、取り残されるミーコ、力なく座る。

ハバリ あやつも向かったようじゃな……。
ミーコ なんで……？ なんで一人で行っちゃうの……？
ハバリ それは、記憶に触れた者だけがわかる。
ミーコ え？
ハバリ あやつらは思い出したのだろう、記憶の片鱗を。自らのすべきことを。
ミーコ ……。
ハバリ さあ、お主は何を選ぶ？

二人を異空間が包む。

■ 2 1 異空間 ↓ 記憶世界

ミーコの前に、熊野本宮大社が現れる。

ミーコ 熊野本宮……。

ハバリ ここには、八咫鳥が羽を休めておる。

ミーコ ……私はどうしたらええん？

ハバリ 選ぶことになる。

ミーコ 選ぶ？

ハバリ カグツチの浄化を受け入れるのか。争うのか。

ミーコ もし……争ったら、さっき見たような未来が待ってるん？ やったら……

ハバリ それも選べばよい。

BGMが流れると共に、記憶世界が混ざる。

そこは現代。家庭の日常風景。

ナミが現れる。

ナミ あら、おはよう。

ミーコ え……ママ？

ナミ なんよ、ボーツとして。顔洗ったん？

ミーコ あれ……？

ミーコ、焦ってスマホを見て、日付やメッセージを確認する。

ナミ ミーコ、スマホやめな？

ミーコ ちよっと待って。

ナミ 待ちません。ご飯食べよおや。

ミーコ 大事やの！

ナミ ママとのご飯より大事なん？

ミーコ え……。

間。

ミーコ そうやんな。ごめん。

ミーコ、スマホを置く。

ナミ ……なんかあった？

ミーコ ……ママ。

ナミ ん？

ミーコ 私ね、ママと食べる朝ごはんって当たり前やと思ってた。これからもずっとこうなんやと思
 ってたし、私ただけじゃなくて、みんな、これからもずっとこうなんやと思ってた。生ま
 れて、育って、学んで、笑って、泣いて、全部当たり前やと思ってたんよ。でも……無くな
 っちゃうかもしれないやあって。大きな噴火で全部無くなっちゃうかもしれないし、噴火が
 無くて無くなっちゃうかもしれないの。……私ね？ ママと朝ごはん食べれやんくなるの
 は嫌なんやけど、でも、みんなのそれが守れるならいいかなって思ってた……。

間。

ミーコ ママはどう思う？

ナミ ママは決められへんよ？ ミーコが決めやんと。

ミーコ ……。

ナミ、優しく微笑む。

ナミ 行くの？ 行かへんの？

ミーコ、ゆっくりと立ち上がる。

ミーコ ……行く。

ナミ よし。頑張ってたな！

ミーコ、岩のゲートへゆっくりと歩みを進める。

ミーコを見送る、ナミ。

ミーコの身体は光に包まれる。

そして、記憶世界へと続くゲートへ向かっていく。

BGMが終わる。

暗転。

■ 2 2 噴火と祈り

テーマ曲（合唱「カグツチ」）が流れ始める。
ミーコ、ゆっくりと歩いてきてしゃがみ込む。
LEDとレーザーによる噴火表現。（SE無し）
彷徨うツカイたち。一人ずつ倒れていく。

松明を持ったツカイたちが、ミーコを囲い、ゆっくりと歩く。
揺れる炎がミーコを囲む。

人々は、しゃがみこむミーコに向かって歌っている。
それは、これからの未来、人々が記憶を繋いでいる光景。

ミーコ、ゆっくりと立ち上がり、踊り始める。
それは、記憶を担い、人類を導く継承者の姿。

カイとツラ、ミーコの元へ歩み寄って来る。
すると、いつかの何気ない三人の日常が回想される。
辺りはゆっくりと暗くなっていく。

松明の炎だけが揺れる中、合唱「カグツチ」が伝える。

「祈りを捧げよ」

テーマ曲（合唱「カグツチ」）が終わる。

人は、精神性を思い出し、信じ、祈り続けている。

幕。